

平成20年3月期 中間決算説明会



スターホールディングス株式会社

STAR HOLDINGS CO.,LTD

<http://www.star-ir.co.jp>

2007年11月

■ 目次

業績概況	1
収益の推移と内訳	2
資産の推移と内訳	3
費用の推移と内訳	4
部門・媒体別の業績	
商品	5・6
為替	7・8
証券	9
「コスト適正化対策」について	10
グループ概要	11

※資料中の財務データについて

当社は2004年12月1日にスターフューチャーズ証券株式会社の株式移転により、設立された持株会社となります。本資料の財務データは、以下の通りとなります。

- ・2004年3月期通期から2005年3月期中間まで
⇒ スターフューチャーズ証券株式会社(現スターアセット証券株式会社)「連結」
- ・2005年3月期通期以降
⇒ スターホールディングス株式会社「連結」

2005年3月期中間以前の財務データは、当期のそれとは連続性が高いものの、完全に連続しているものではありません。従いまして、2005年3月期中間以前の財務データは、あくまでも経年比較のための参考データとなりますことをご了承ください。

■ 業績概況

スターホールディングス株式会社
STAR HOLDINGS CO.,LTD

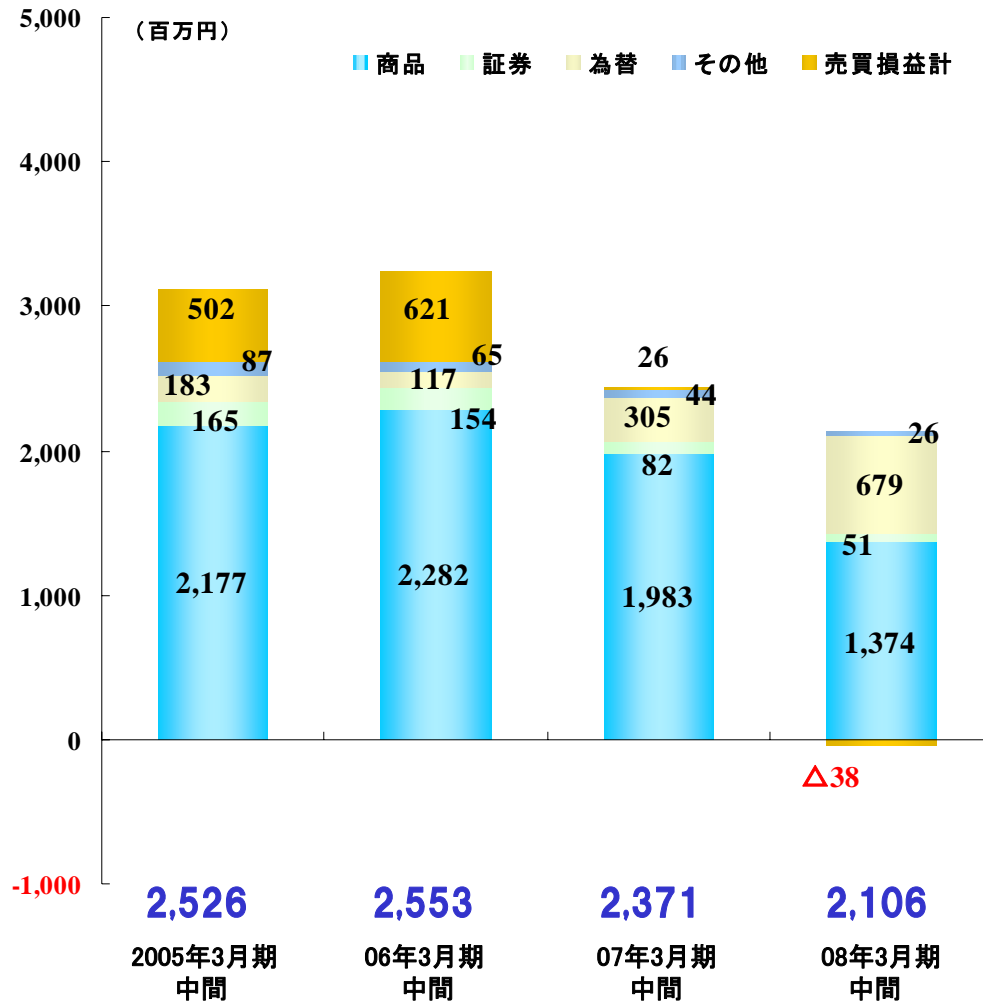
為替業務が大幅増加。商品・証券収益が減少

単位：百万円

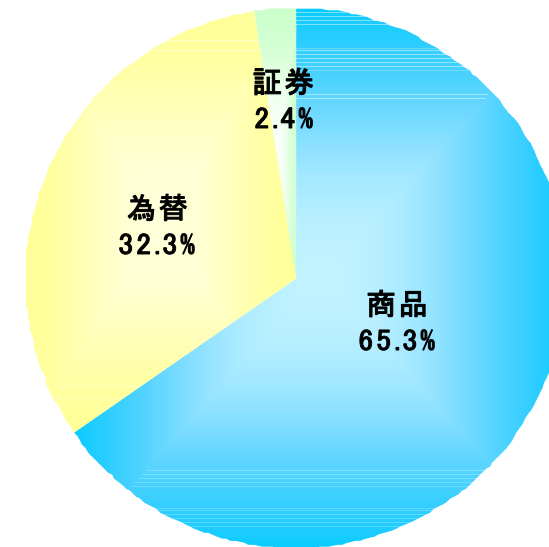
	08年3月期中間 (連結)	07年3月期中間 (連結)	前年同期比 増減率
営業収益	2,093	2,443	△14.3%
受取手数料	2,106	2,371	△11.2%
(商品業務)	1,374	1,983	△30.7%
(為替業務)	679	305	122.3%
(証券業務)	51	82	△37.0%
売買損益	△38	26	—
その他	26	44	△41.8%
営業費用	2,207	2,619	△15.7%
営業損失(△)	△113	△176	—
経常損失(△)	△97	△143	—
当期純損失(△)	△58	△149	—

■ 収益の推移と内訳

□ 収益の推移



□ 当中間期連結受取手数料の事業別内訳



■ 増加 ⇒ 為替業務

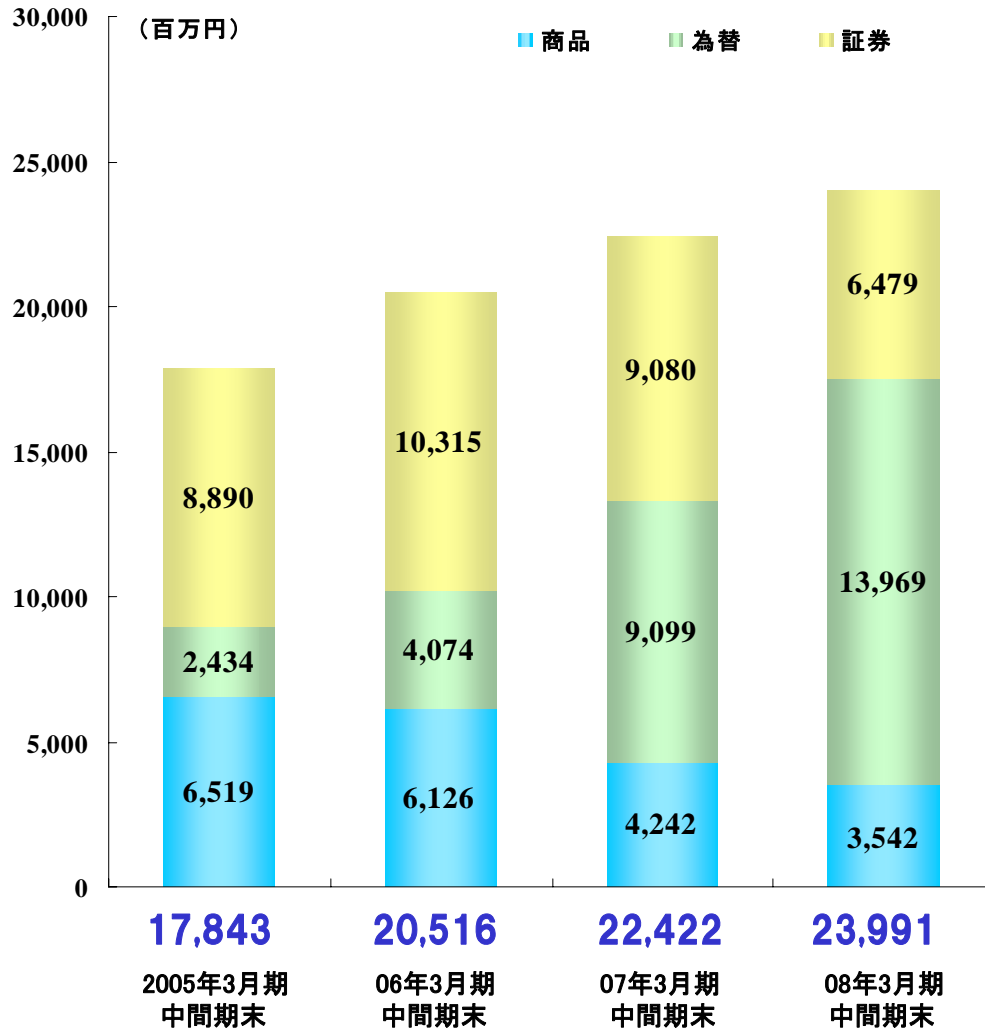
「くりっく365」の収益を当中間期で578百万円(前年同期236百万円)を計上。為替業務の収益が前年同期比で122.3%増加。

■ 減少 ⇒ 商品業務

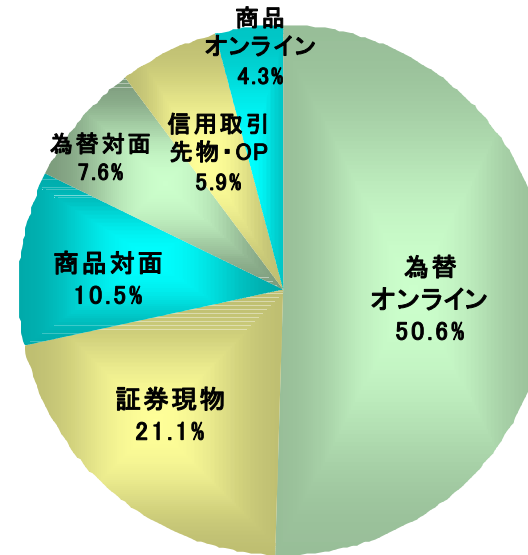
国内市場における売買高の減少が続く。
 全体: 9,528万枚(前中間) ⇒ 7,268万枚(当中間)
 当社: 101万枚(前中間) ⇒ 83万枚(当中間)

■ 資産の推移と内訳

□ 預り資産の推移



□ 当中間期の口座別預り資産

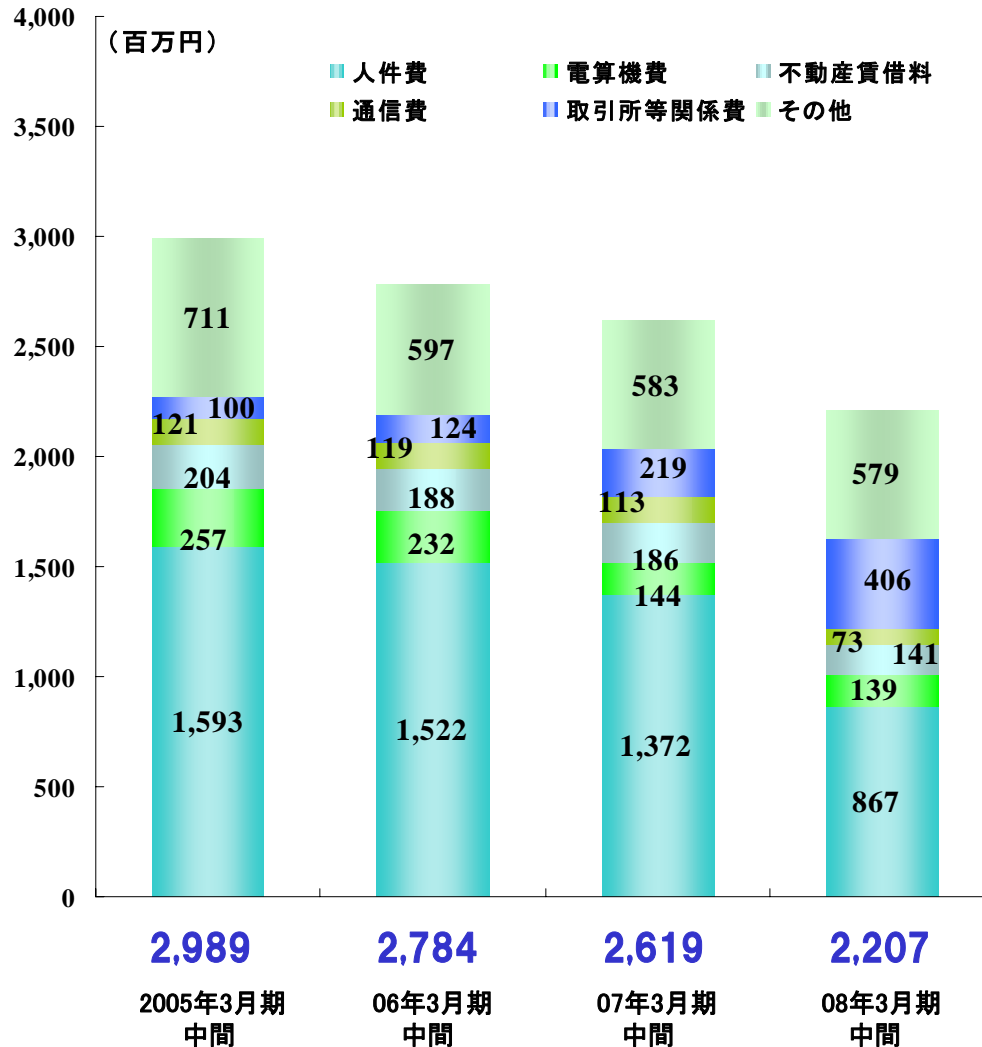


■ 増加 ⇒ 為替業務
「くりっく365」の預り資産の増加(当中間期末12,133百万円)により、為替業務の預り資産が53.5%増。

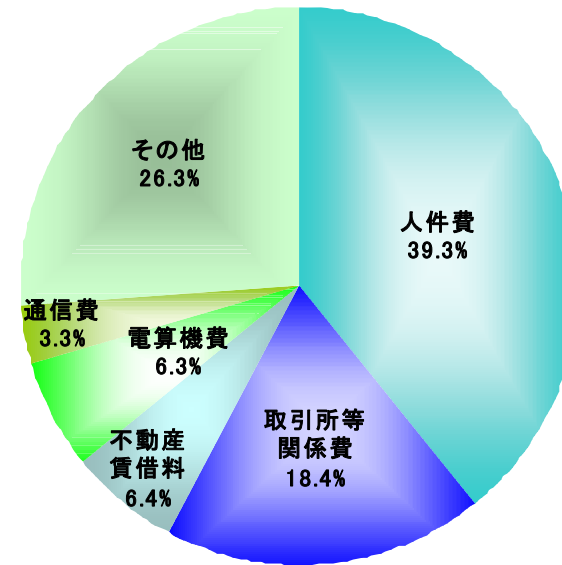
■ 減少 ⇒ 商品業務
貴金属や石油などの国際商品価格の乱高下により、顧客資産が著しく減少。前年同期比で16.5%減。

■ 費用の推移と内訳

□ 費用の推移と内訳



□ 当中間期連結費用の内訳



■ 増加⇒取引所等関係費

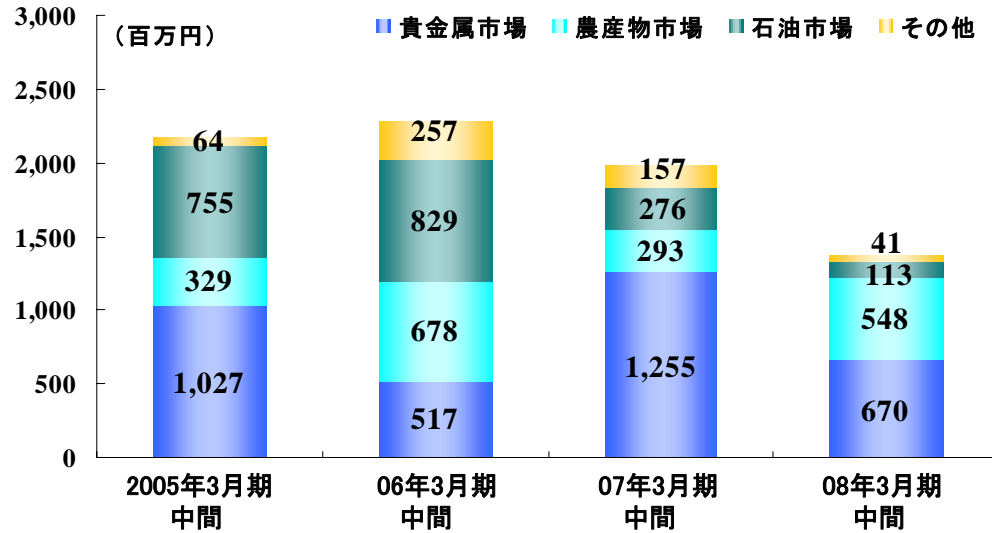
「くりっく365」の取引高が前年同期比で123.0%増加。これにより取引所等関係費が同85.2%増加。

■ 減少⇒人件費、通信費

営業費用は支店の統廃合などの経営合理化の取り組みにより、人件費は前年同期比36.8%減、通信費は同35.5%減。

■商品 業績概況

□ 受取手数料の推移と内訳

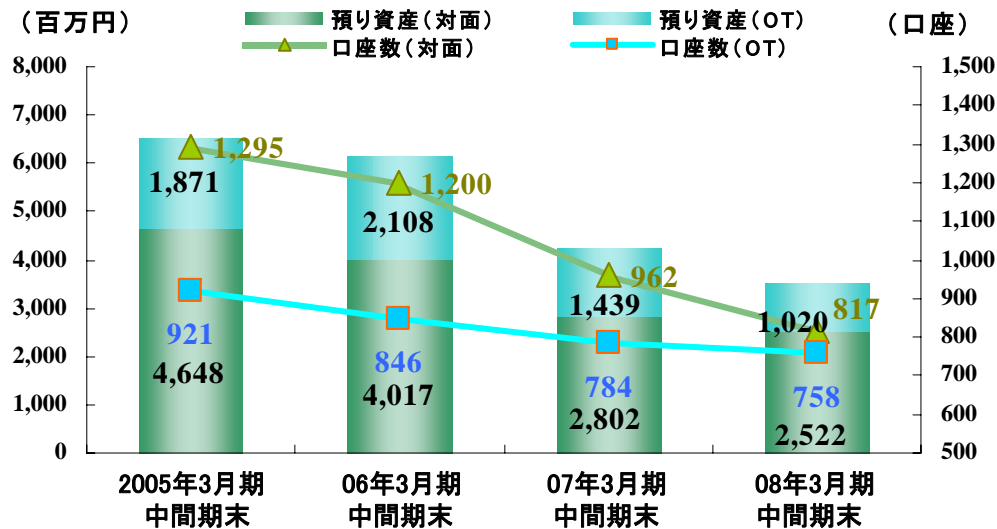


収益の状況(前年同期比、%)

農産物市場	86.9%増
貴金属市場	46.6%減
石油市場	58.8%減

農産物が大幅増加したものの、
貴金属と石油が減少

□ 預り資産と口座数の推移



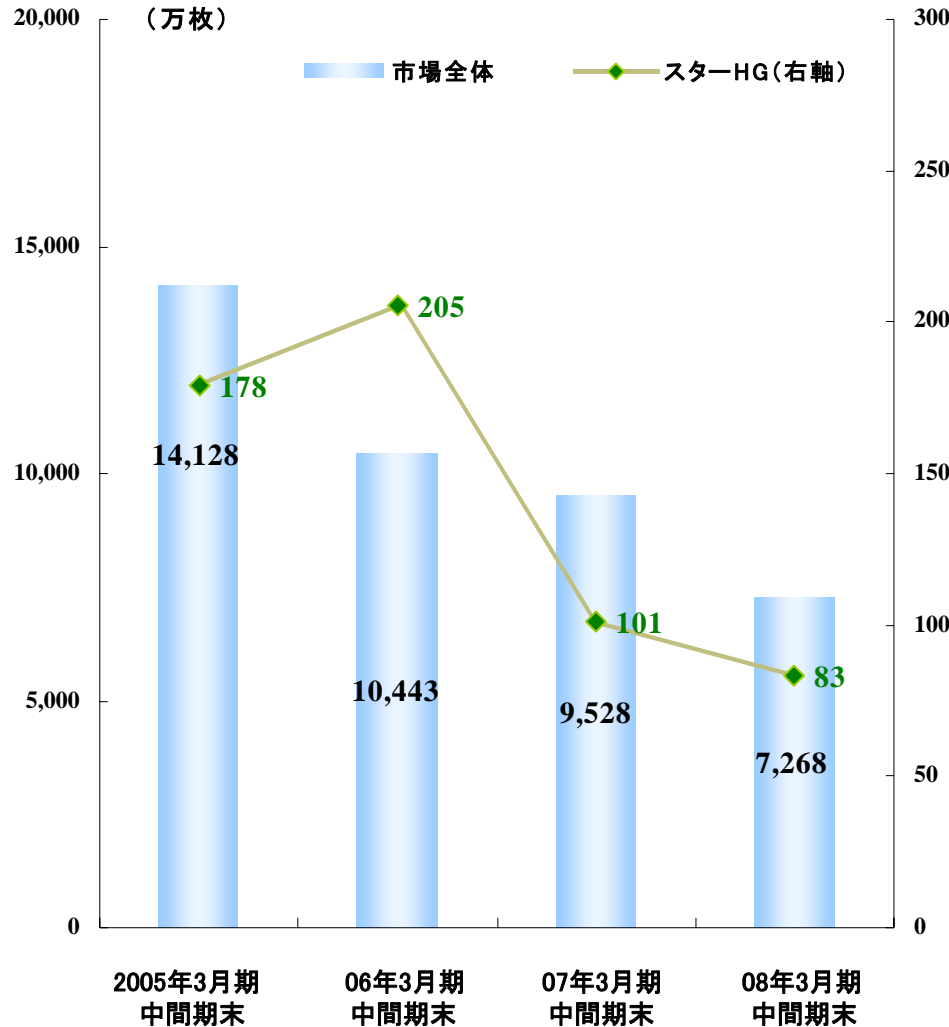
預り資産と口座数の状況 (前年同期比、%)

	対面	OT
預り資産	10.0%減	29.1%減
口座数	15.1%減	3.3%減

対面・オンラインの預り資産と
口座数がともに減少

商品サマリ

商品先物市場全体と当社グループ売買高比較



国内商品先物市場の低迷が続く

・スターホールディングスグループ

⇒前年同期比で17.8%減

・商品先物市場全体

⇒前年同期比で23.7%減

◎市場全体の動きに伴い、当社売買高も減少。

商品先物市場の動き

①世界的な商品取引所の再編の流れ

・海外

CME・CBOT ⇒「CMEグループ」(H19年7月)

・国内

関西・福岡 ⇒「関西商品取引所」(H18年12月)

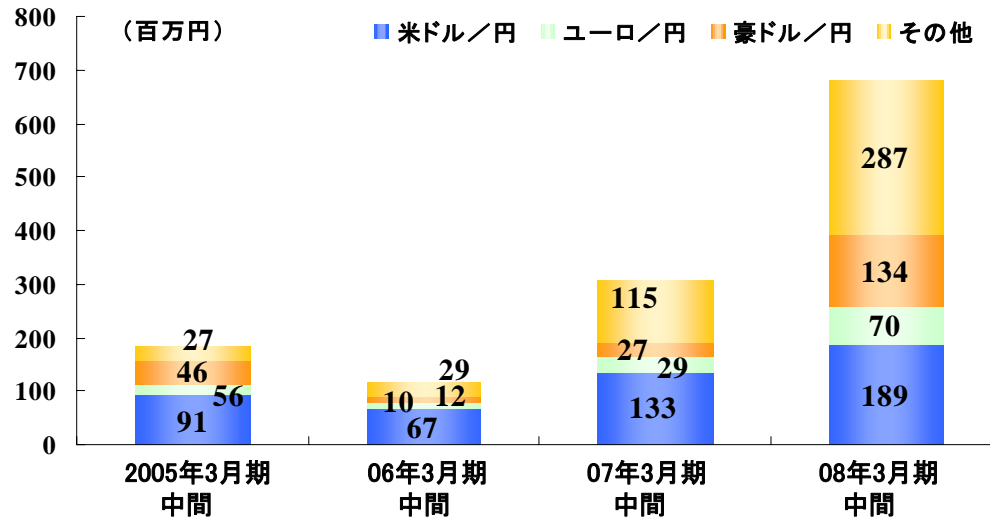
中部・大阪 ⇒「中部大阪商品取引所」(H19年1月)

②改正商品取引所法(行為規制や純資産額規制比率の導入)の影響

◎国内市場は引き続き、低迷が続くと考えられる。

■ 為替 業績概況

□ 収益の推移と内訳

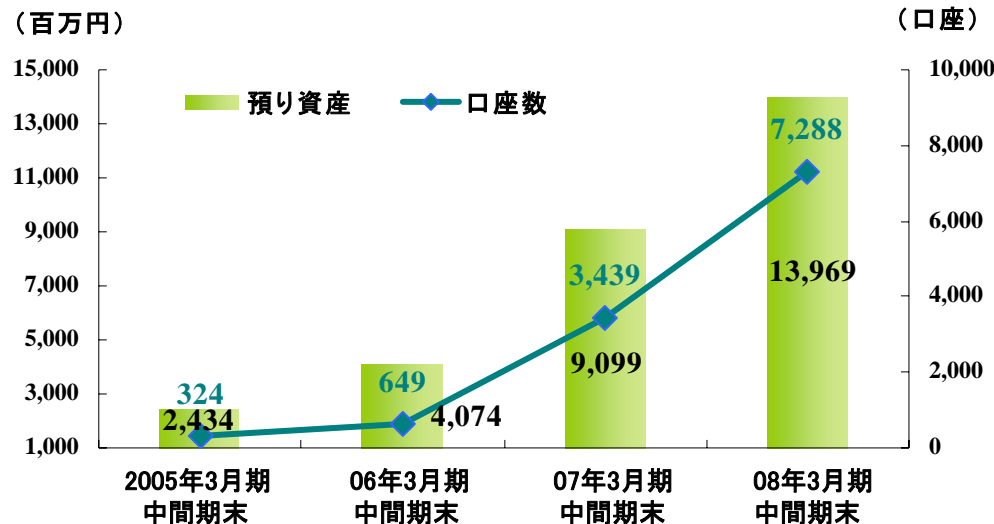


収益の状況 (前年同期比)

米ドル/円	40.4%増
ユーロ/円	139.9%増
豪ドル/円	388.7%増
その他	148.5%増

くりっく365の拡大により、
各通貨取引が増加

□ 預り資産と口座数の推移



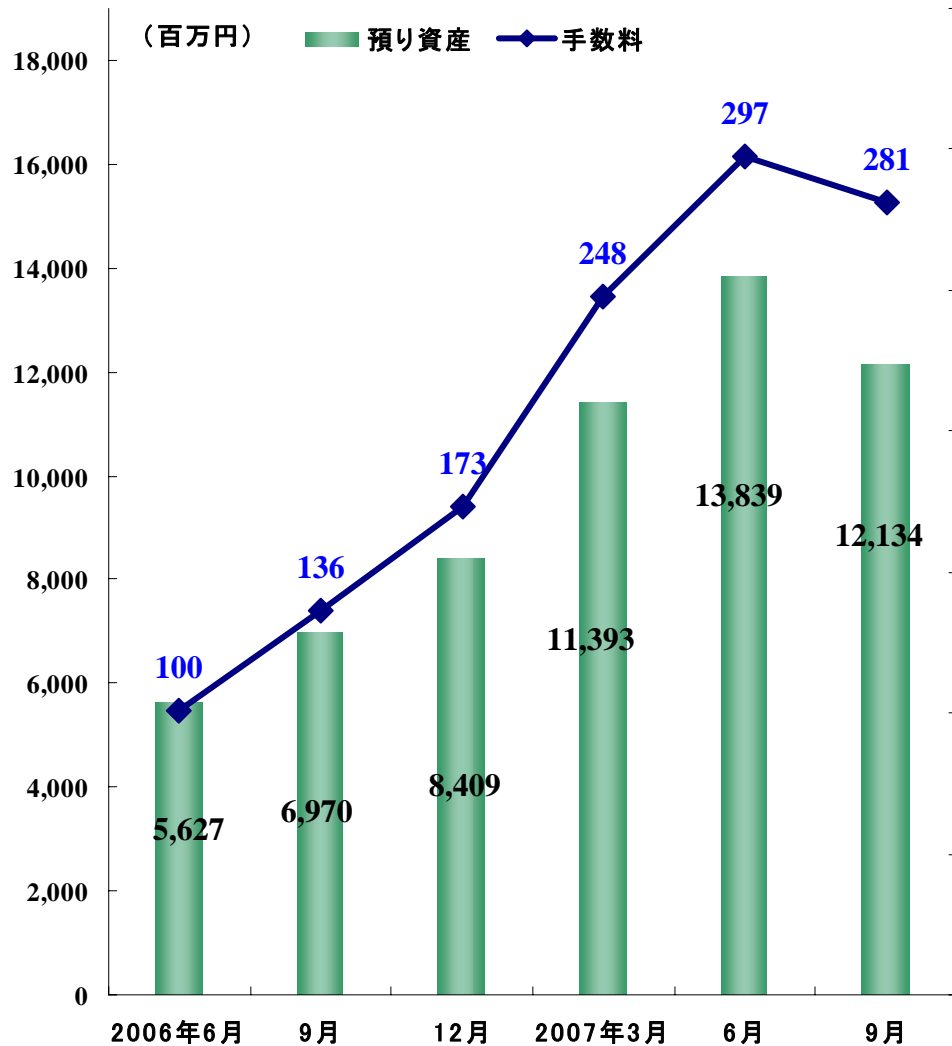
預り資産と口座数の状況 (前年同期比、%)

預り資産	53.5%増
口座数	111.9%増

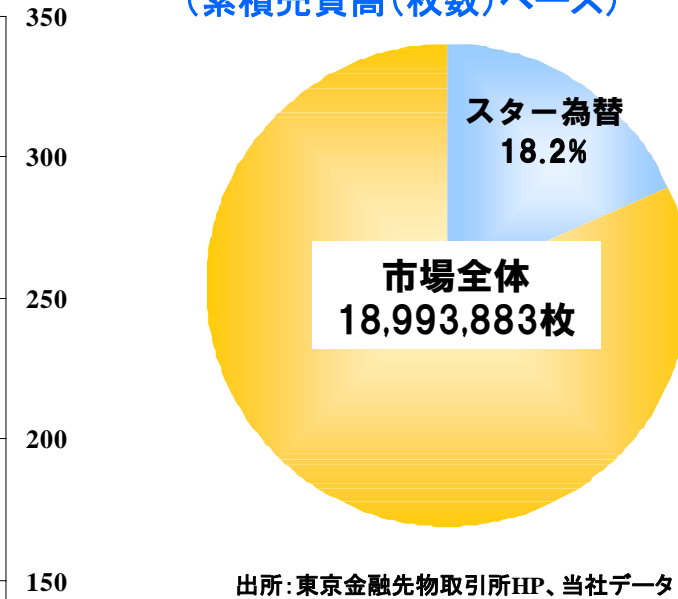
くりっく365の預り資産
口座数ともに大幅増。

■ 為替サマリ

□ 「くりっく365」の手数料と預り資産の四半期推移



□ 「くりっく365」市場シェア (累積売買高(枚数)ベース)



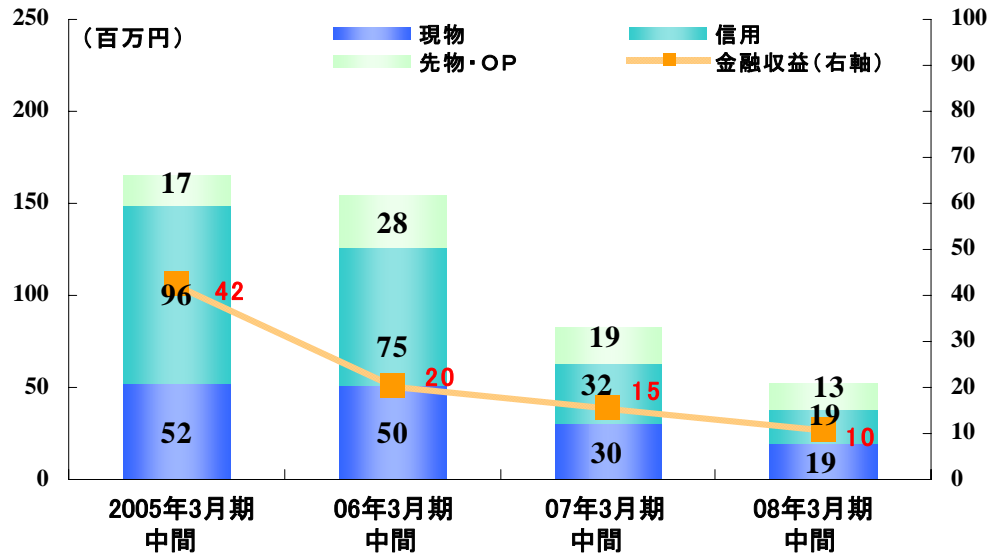
・手数料
前中間期 236百万円 ⇒ **578百万円**

・預り資産
前中間期末6,970百万円 ⇒ **12,133百万円**

・市場シェア
当中間期末 **18.2%**と約2割弱

証券 業績概況

□ 収益の推移

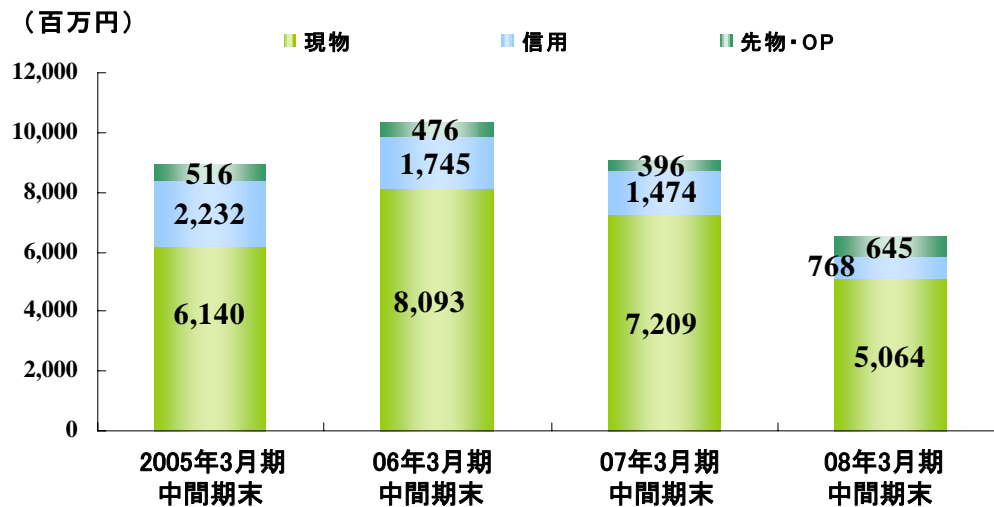


収益の状況 (前年同期比、%)

現物取引	36.8%減
信用取引	41.2%減
先物・OP	30.1%減
金融収益	31.3%減

信用取引が大幅に減少
その他の収益も軒並み減少

□ 預り資産の推移



預り資産の状況 (前年同期比、%)

現物	29.8%減
信用	47.9%減
先物・OP	62.8%増

預り資産全体が減少

■「コスト適正化対策」について

□「コスト適正化対策」

■実施事項(主要子会社スターアセット証券(株)にて実施)

I 役員人事

① 9名の取締役を4名に減員 ② 取締役の降格人事 ③ 役員報酬の減額

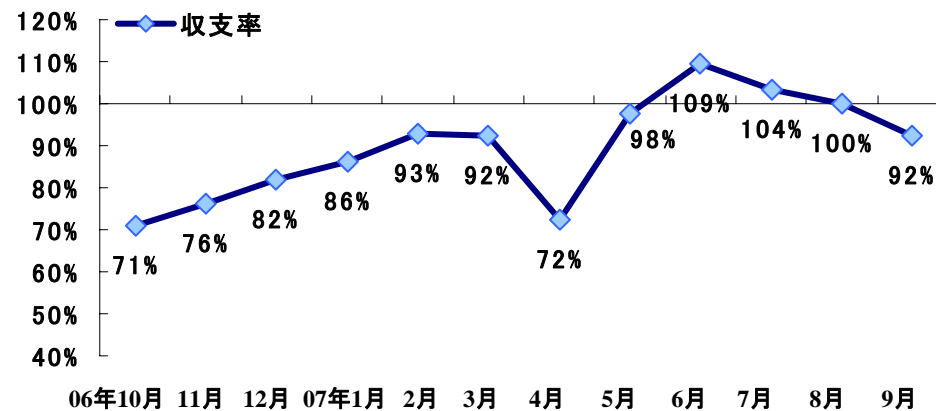
II 効率的な支店の統廃合

従来 8拠点⇒3拠点に集約

III 組織のスリム化

① 従来 8部・3室体制⇒5部・1室体制へ集約 ② 営業部門において「事業部制」を廃止

■実施後の状況(受取手数料／営業費用＝収支率)



■対策後の収支状況

・若干の改善傾向がみうけられる。

2006年10月 71%

⇒ 2007年9月 92%

継続的なプラス収支の状態には、
まだ至ってない。

■ グループ概要

スターホールディングス株式会社
STAR HOLDINGS CO.,LTD

